

## 阿蘇山

### 概況

10月16日朝、阿蘇中岳第一火口から西南西約6kmにある南阿蘇村吉岡の噴気地帯(図1、図2)で、噴気が強まっているとの連絡がありました。同日、阿蘇山測候所および京都大学火山研究センターが行った現地調査で、吉岡の噴気地帯B(図1、図2、図4)から西側約300mの範囲に主に泥からなる少量の噴出物が確認されました(図3)。付近住民への聞き取り調査の結果、噴出があったのは15日深夜から16日早朝にかけてと推定されます。また、21日にも同様の噴気が上がっているとの連絡があり、現地調査の結果、ごく少量の噴出物が確認されました。これらは噴気の勢いが強まり噴気孔の周りの泥などを噴出したものと考えられます。

この地域は従来から噴気活動がみられており、本年3月頃から噴気がやや強まる傾向が認められました。一般的に噴気地帯では今回のような現象が時々起こることがあります。また、くぼ地などに火山ガスが滞留することもあります。今後も引き続き噴気活動に注意が必要です。

なお、中岳第一火口の熱活動および地震活動は低調な状態で、地殻変動にも特段の変化はありません。阿蘇山(中岳第一火口)の火山活動度レベルは0~5のうち、1(静穏な火山活動)です。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものです。  
(承認番号 平17総復 第650号)

図1 南阿蘇村吉岡の噴気地帯位置図



図 2 南阿蘇村吉岡 噴気地帯の状況 (10 月 23 日撮影)  
 ・噴気地帯 B の北西側約 200m から撮影。  
 ・噴気地帯 B からの噴気の高さは概ね 40~50m でした。

表 1 各噴気地帯の温度

	噴気温度 ( )	測定機器
噴気地帯 A	106	サーミスタ温度計
噴気地帯 B	93	赤外放射温度計 <sup>1)</sup>
噴気地帯 C	97	サーミスタ温度計
噴気地帯 D	97	サーミスタ温度計

1) 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定できる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。



図 3 南阿蘇村吉岡 噴気地帯 A 付近の噴出物 (左図 :10 月 16 日撮影 右図 :10 月 21 日撮影)

16 日および 21 日に主に泥からなる噴出物を確認しました。

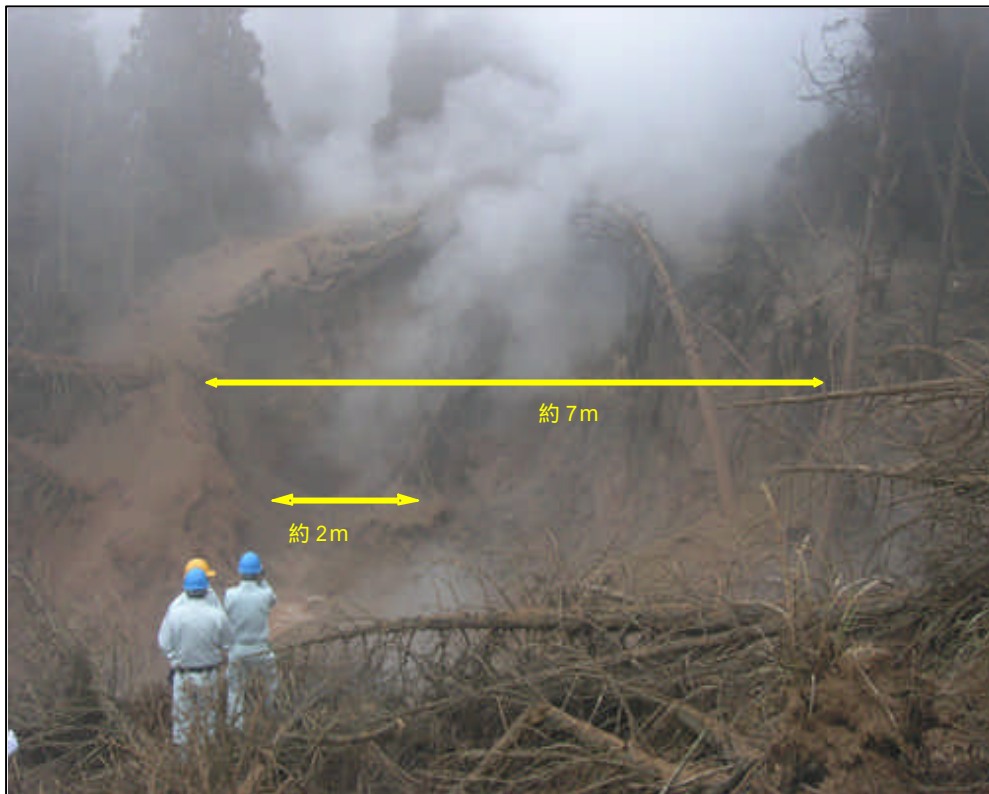


図4 南阿蘇村吉岡 主として泥からなる少量の噴出物を噴出した噴気孔(10月23日撮影)

- ・噴気孔全体の大きさは約7mであり、そのうち勢い良く噴気を噴出している孔の直径は約2mでした。
- ・噴気温度<sup>2)</sup>は93 でした。

2) 赤外放射温度計による。